

「建築工事適正工期算定プログラム」 について

2020年2月3日

日建連 施工部会
適正工期算定専門部会

適正工期の設定条件

休日設定： 完全週休2日、祝日出勤

特別休暇： 年末年始5日、夏季3日、ゴールデンウィーク3日

労働時間： 8時間労働(残業なし)

歩 掛： 各社の歩掛データより192項目の日建連歩掛値を策定

気象条件： 過去20年の日降水量10mm以上の雨天日数をもとに雨天予想日を設定、過去20年の台風進路をもとに台風予想日を設定。いずれも都道府県別に設定。

冬期補正： 全国の市区町村を「寒冷地域」「多雪地域」「極寒地域」「多雪極寒地域」「該当なし」に区分し、積雪等による作業歩掛の低下を工種別に設定

適正工期： 日建連が策定した条件を満たす工程表には「日建連適正工期」の赤色の文字が表示されます。ユーザーが休日や作業線等を変更して適正工期の条件を満たさなくなると、文字が「日建連工期」(青色)に変化します。

1. 適正工期算定プログラムの概要

適用範囲

対象地域	一般的な都市（過疎地域は含まない）
用途	事務所、集合住宅、学校、工場・倉庫、医療施設
構造	RC造、SRC造、S造、PCa造（集合住宅のみ）、柱RC梁S造（工場・倉庫のみ） 本マニュアルでは「プレキャスト鉄筋コンクリート構造」を、「PCa造」と表記します。 基礎免震、中間階免震、柱頭免震を選択可 ※中間階・柱頭免震はユーザーが設置階を設定できます。 ※60m以下の建物は構造計算にて数量算出。 60m以上はスパン割にて施工ピース数を算出
階数	地下4階、地上45階、PH2階以下。 ただし、PCa造は60階以下、柱RC梁S造は10階以下
高さ	RC造・SRC造・柱RC梁S造は地上60m以下、S造・PCa造は地上200m以下。 ※詳細は次ページにて説明
面積	階面積は下記「構造別適用範囲」を参照 延床面積の上限は、階面積と階数の上限で決まります。

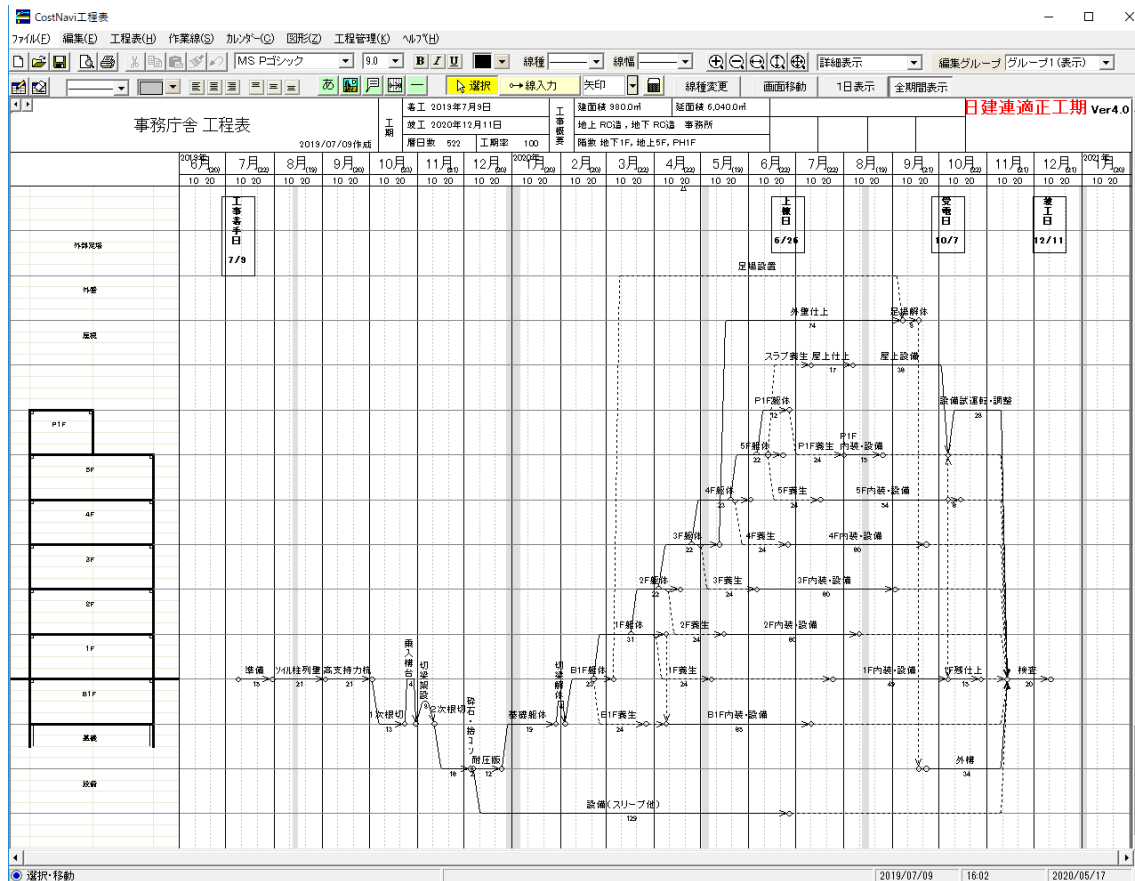
1. 適正工期算定プログラムの概要

構造別適用範囲

構造	用途	地下階数	地上階数[F]	高さ(m)	階面積(m ²)[A]
RC造	全用途	4	45	60	$300 \leq A \leq 5,000$
SRC造	全用途	4	45	60	$300 \leq A \leq 5,000$
S造	全用途	4	45	200	$300 \leq A \leq 5,000$ 工場・倉庫は10,000以下
PCa造	集合住宅のみ	-	$15 \leq F \leq 60$	200	$300 \leq A \leq 2,400$
柱RC梁S造	工場・倉庫のみ	-	10	60	$1200 \leq A \leq 10,000$

2. 適正工期算定プログラムの特徴 適正工期算定専門部会

- 1) ネットワーク工程表を数分で作成することができる。
- 2) 共通の歩掛・算出ロジックを使用しているので個人の経験による差が出にくい。



2. 適正工期算定プログラムの特徴 適正工期算定専門部会

① 企画段階 (STEP1)

設計着手前では、具体的な建物データを入力しなくても、最も可能性が高いと思われる条件を自動選択し、それを基に構造計算をして概算で工事数量を算出し、工程を算定する。

② 基本設計段階 (STEP2)

基本的なプランや仕上げが決まり、その情報を基に躯体数量を算出し、より実現性の高い適正工期を算定する。

③ 実施設計段階 (STEP3)

積算した躯体数量を直接入力することで、正確な適正工期が算定できる。

① 企画段階 (STEP1)

適正工期算定専門部会

建物概要の入力

建物概要

建物名: 事務庁舎 (全角24文字まで)

所在地: 東京

建物用途: 事務所

敷地面積: 1200 m² 建築面積: 980 m² 延床面積: 6040 m²

階数: 地下 1, 地上 5, PH 1 免震構造: なし

階別データ: 面積・階高・構造自動 (セルドラッグでコピー)

階	面積(m ²)	階高(mm)	構造	階用途(m ²)
P1F	160.00	4,000	RC	廊下・階段・ホール
5F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
4F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
3F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
2F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
1F	980.00	4,400	RC	事務室 980.00
B1F	980.00	4,150	RC	事務室 980.00

面積計/地上高 6,040.00 23,600

戻る 次へ

●所在地

対象建物の所在地を都道府県から選択します。所在地は、冬期補正が必要な地域の判別と、躯体数量を算出するための構造計算で地震係数、積雪荷重の値に使用されます。

●建物用途

建物の主用途をリストから選択します。複数の用途があるときは、最も面積の広い用途を選択してください。選択した用途で階用途の初期設定が表示されます。副用途を後で追加することもできます。

●敷地面積・建築面積

敷地面積と建築面積より、クレーンの選定や、生コン車の設置台数を自動で判断します。

複数の棟が建つ場合や広い敷地の一部に建つ場合は、対象建物の工事に使用する敷地面積を入力してください(仮囲い等で囲まれた面積)。

●延べ床面積

延べ床面積を入力すると各階の面積を自動で割り付けます。階ごとに面積を入力することもできます。

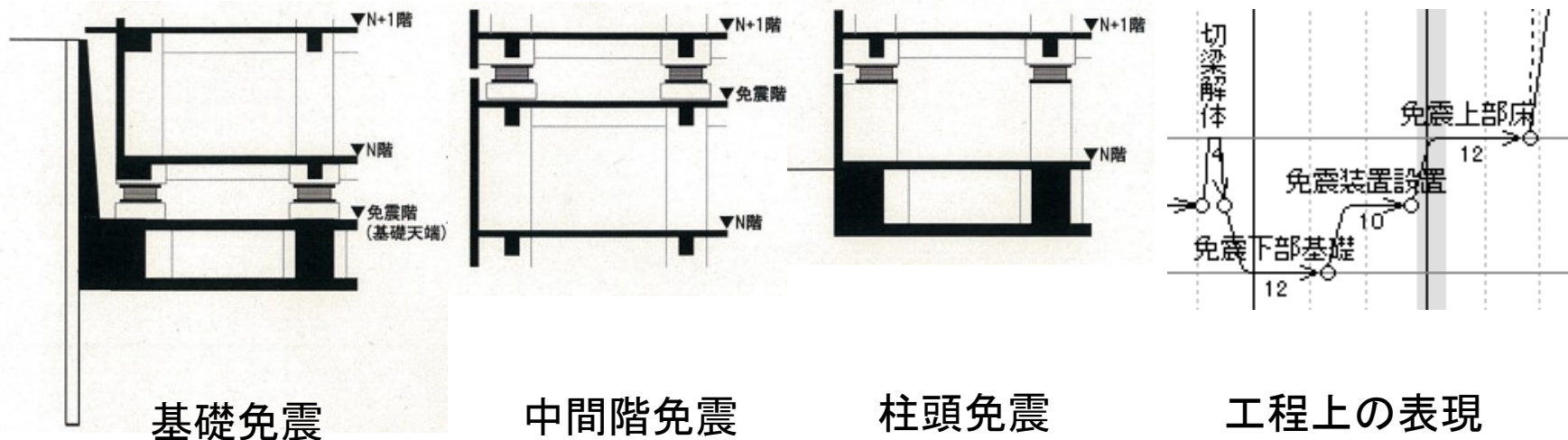
●階高

各階階高と階数で最高高さを算定します。適用範囲は構造種別ごとの組み合わせを参照してください。

●免震構造

免震構造のとき「あり」にします。初期値は「なし」です。本プログラムの免震構造は、基礎免震、中間階免震、柱頭免震に対応しています。「あり」にしたときの初期値は基礎免震です。基礎免震以外は、この後の「詳細設定」-「躯体」で選択できます。

① 企画段階 (STEP1) 免震の設定



● 免震種類

建物概要で免震構造「あり」にしたとき、基礎免震、中間階免震、柱頭免震から選択できます。自動設定値は、地下の階数が2以下は基礎免震、地下の階数が3以上は中間階免震で、免震階は1F床下です。

● 免震階

中間階免震、柱頭免震のときに免震層の設置階を指定します。

中間階免震で「2F床下」とすると、1F天井と2Fの床下間に免震層が設置されます。

柱頭免震で「2F柱頭」とすると、2F柱の柱頭(3F梁の下部)に免震層が設置されます。

● 免震層を設置できない条件

中間階、柱頭免震は、下記の場合に設置できません。基礎免震に制限はありません。

S造の階に柱頭免震を設置した場合

鉄骨の節割位置と免震層の階位置が異なっている場合

鉄骨の建方が建逃げの場合

② 基本設計段階 (STEP2)

自動設定データの変更

詳細設定

現在の主な設定値

[土工・地業]

杭	高支持力杭 600φ 先端GL-25m
山留	ソイル柱列壁 三点式杭打機 オーク径800φ 壁存置
根切	井形切梁1段 構台あり
根切	総掘り

[躯体]

構法	独立基礎 ビットあり 1階柱35本
スラブ型枠	RC階:合板型枠
RC造	打設量150m ³ /日 生コン車1付け

[仕上]

屋根	陸屋根 アスファルト防水(押エコ)
外壁	小口タイル45二丁程度 RC下地 100%
事務所	床:タイルカーペット(OA床) 壁:塗装 天井:岩綿吸音板張り

[設備]

電気	高圧受電 キュービクル:屋上設置
空調	外付個別併用方式(隠蔽)/中央+個別 熱源機器:屋上設置
エレベータ	2台

日建連版は建物概要のデータから、構造計画、仕上仕様、工法などを自動設定します。その設定した値が「詳細設定画面」に表示されます。変更が必要な場合は、自動設定された値をユーザーが変更できます。

それぞれの項目にある設定ボタンをクリックするとそれぞれの「詳細設定画面」が開きます。

② 基本設計段階 (STEP2)

詳細設定の方法

	自動設定	採用値
杭の有無	あり	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
杭の種類	高支持力杭	=自動
杭の工法	三点式杭打機	=自動
相番機の有無	あり	=自動
杭径(最頻値)	900mm	=自動 mm
杭先端深さ	GL-25.0m	GL- =自動 m
杭本数	35本	=自動

●各タブを選択し、それぞれの詳細条件を設定します。

●自動設定の囲み

左側の自動設定の囲みは、本プログラムが自動設定した値を表示しています。建物概要を変更すると、自動設定値も適切な値に変化します。

●採用値の囲み

自動値をユーザーが変更したいときに入力する欄です。変更するときは「=自動」の文字を消してユーザー値を入力します。自動値に戻るときは、リストから「=自動」を選択します。リストでないときは「=」と入力すれば「=自動」になります。

各工種の詳細設定は同じように設定できます。

入力した値がシステム上、不整合な場合は、アラート表示が出ます。

② 基本設計段階 (STEP2)

杭の詳細設定

● 杭の有無

柱軸力と長期許容地耐力から杭の有無を判別します。柱軸力は固定荷重と積載荷重から算出されます。長期許容地耐力は $78.4\text{KN}/\text{m}^2$ ($8\text{tf}/\text{m}^2$)です。

● 杭の種類

PHC杭→高支持力杭→アースドリル杭→アースドリル拡底杭の順で構造計算をおこない、必要な許容支持力が得られる杭種を採用します。

● 杭の工法

PHC杭と高支持力杭のとき、杭の工法が選択できます。これ以外の杭に工法はありません。自動設定値は杭の施工面積により設定されます。杭の施工面積は最も広い階の面積としています。

● 相番機の有無

相番機(杭掘削機の補助をするクレーン)があると、杭の施工効率が上がります。自動設定の初期値は相番機「あり」です。ただし、杭の施工面積が狭く相番機が入れない可能性がある場合は注意メッセージが出るので、相番機が入れることを確認できている場合を除いて、相番機は「なし」にしてください。

● 杭径・杭先端深さ・杭本数については、ユーザーが数値入力することができます。

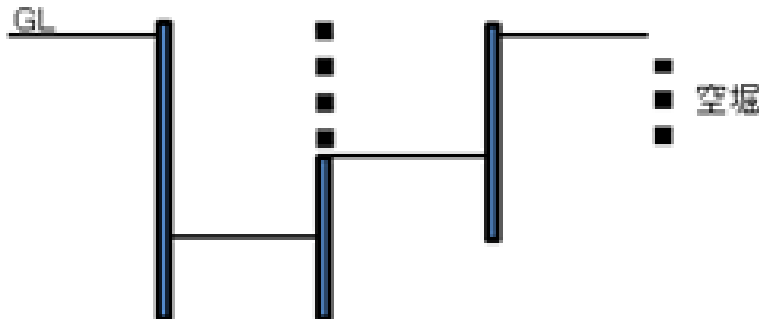
杭種	杭の施工面積 (m^2)	採用工法(施工機械)
PHC杭	800未満	アボロン杭打機
親杭横矢板	800以上	三点式杭打機
高支持力杭	800未満	アボロン杭打機
	800以上	三点式杭打機

② 基本設計段階 (STEP2)

山留の詳細設定 - 1

項目	自動設定	採用値
壁の有無	あり	☑ = 自動 ☐ = あり ☐ = なし
壁の種類	円柱列壁	☐ = 自動
壁の工法	三点式杭打機 ボルト径300φ	☐ = 自動
相番機の有無	あり	☐ = 自動
引抜きの有無	存置	☐ = 自動
余幅(1m)の有無	なし	☐ = 自動
先端深さ(m)	GL-0.1m	GL- ☐ = 自動 m

自動値に戻すときは「0」も入力。



※段差部の山留にも対応。入力は土工事で入力

●壁の有無

根切り深さが2mを越えると山留め壁「あり」に自動設定されます。ただし、根切り深さ3m以下かつ敷地に法肩+2m以上の余幅があると想定される場合は山留め壁「なし」になります。

根切り深さ(m)は、地下階高+基礎梁せい+0.1+捨コン厚+碎石厚で計算されます。

根切り深さの起点となるGLは、1FL±0としています。

●相番機の有無

相番機(山留め壁掘削機の補助をするクレーン)があると、山留め壁の施工効率が上がります。自動設定の初期値は相番機「あり」です。

ただし、根切り面積が狭く相番機が入れない可能性がある場合は注意メッセージが出るので、相番機が入れることを確認できている場合を除いて、相番機は「なし」にしてください。

●引抜きの有無

山留め壁が親杭横矢板または鋼矢板のときに設定できます。基礎・地下躯体の完了後に山留め壁を引き抜くか、そのまま残すかを設定します。自動設定は「存置」です。

「引抜き」にすると工程表に引抜きの作業線が出力されます。

② 基本設計段階 (STEP2)

山留の詳細設定－2

壁の種類	自動設定値	工法
親杭横矢板		バイブロ工法
親杭横矢板	*	アボロン工法
親杭横矢板		3点式オーガーミルク
鋼矢板		ミニオーガー
		バイブロ工法
鋼矢板	根切り面積200㎡未満のとき*	サイレントパイラー工法Ⅳ型
鋼矢板	根切り面積200㎡以上のとき*	サイレントパイラー工法Ⅴ型
		クラッシュパイラー工法
		オーガー併用
ソイル柱列壁	根切り面積300㎡未満のとき*	小型重機 オーガー径550φ
	300 ≤ 根切り面積 < 600㎡のとき*	小型重機 オーガー径600φ
ソイル柱列壁	600 ≤ 根切り面積 < 800㎡のとき*	三点式杭打機 オーガー径550φ
ソイル柱列壁	根切り面積800㎡以上のとき*	三点式杭打機 オーガー径800φ
●壁の種類 ●場所打連続壁		工法なし

根切り深さ4m以下は親杭横矢板が設定されます。それ以上はソイル柱列壁が設定されます。

●余掘(1m)の有無

山留めと建物の間に余掘りを設けるか否かを設定します。自動設定は「なし」です。

「あり」にすると、埋戻しの作業線が工程表に出力されます。

●先端深さ

自動設定値は、側圧に対する応力で根入れ深さを設定します。ユーザーにて入力も可能です。

② 基本設計段階 (STEP2)

根切の詳細設定



●最下階FLからの根切り深さ

根切り深さを、最下階のFLからの寸法で表示しています。
根切り深さ(m) = 地下階高 + 基礎梁せい + 0.1 + 捨コン厚 + 碎石厚 で計算されます。0.1は基礎梁底からフーチング底の深さです。基礎免震または地下階に中間階免震がある場合は、さらに免震層の高さが加算されます。
根切り深さの起点となるGLは、1FL±0としています。

●根切り深さの入力方法

グレーの行には、自動設定の深さとその面積が表示されています。

①行追加ボタンをクリックします。

②深さセルに深さを入力します。1m未満の深さは入力できません。

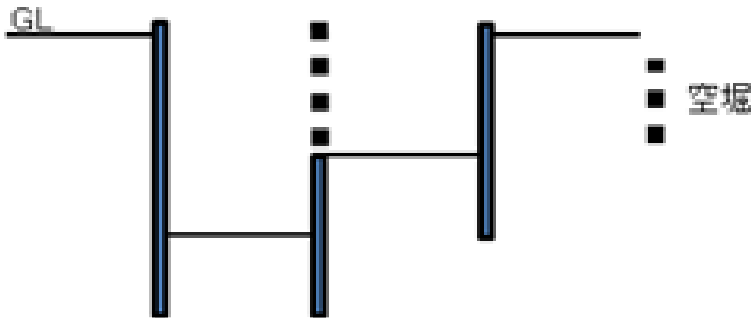
③面積セルに深さセルに該当する面積を入力します。ピット等で部分的に深いときは、その部分の面積を入力します。自動設定値を超える面積は入力できません。

④グレーの行の面積が自動的に再計算されます。

根切り底を変更すると、根切り量、山留め壁の面積、基礎躯体の数量など、関連する数量が根切り底に合わせた値に再計算されます。

●GL～1FLの高さ

GL～1FLの高さ=0(1FL=GL±0)にしています。



② 基本設計段階 (STEP2)

切梁・構台の詳細設定

●切梁段数

地下階があるときは、基本的に**段数＝地下階数**ですが、階高が高い場合は段数が増えることがあります。免震層が地下または基礎にあるときは1段加算されます。基礎梁せいが4m以上のときも1段加算されます。地下階がないときは根切り深さにより段数は決まります。

切梁が不要な場合は「0段」と入力してください。

●切梁の形式

切梁の架設方法を、井形切梁と一方向切梁から選択できます。一般的に用いられるのは井形切梁で、切梁のスペンが短い(本プログラムでは**短辺30m以下**)場合は一方向切梁を選択できます。井形切梁は部分的に切梁の解体をすることはできませんが、一方向切梁は部分的に解体できるので次の躯体工事を早く始められるメリットがあります。

●切梁架設歩掛

切梁架設については、下段部分は施工歩掛を低減しています。

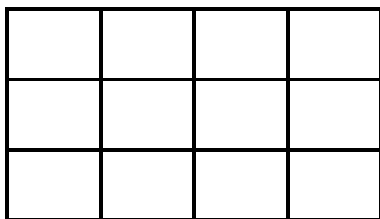
●構台有無

自動値は、切梁ありのとき乗入れ構台「あり」になります。

●構台面積

乗入れ構台の面積の自動値は、根切りの水平投影面積の30%です。構台面積はユーザー入力が可能です。

[井形切梁]



[1方向切梁]



② 基本設計段階 (STEP2)

構法の詳細設定

The screenshot shows a software window titled '躯体詳細 - 事務庁舎.NKD'. The main area is labeled '躯体 詳細' and contains several tabs: '構法', '鉄骨', 'RC造', 'S造', 'SRC造', 'PCa造', '柱RC梁S', '工区割', and '柱・外壁'. The '構法' tab is active, showing settings for '基礎' (Foundation), 'スラブ型枠' (Slab Formwork), and '免震' (Seismic Isolation).

項目	自動設定	採用値
基礎形式	独立基礎	=自動
ピットの有無	あり	=自動
RC造の階	合板型枠	=自動
S造の階	デッキプレート	=自動
SRC造の階	デッキプレート	=自動
種類	基礎免震	=自動
免震階		

●基礎形式

柱軸力と長期許容地耐力などから構造計算を行い基礎形式を判別します。

まず「独立基礎(杭なし)」で検討し、不可の場合「べた基礎(杭なし)」「独立基礎(杭あり)」の順で検討します。基礎形式の混在はできません。

●ピットの有無

最下階スラブ下のピットの有無を設定します。自動設定値は「ピットあり」です。地下階のスラブ下は、この設定にかかわらずピットありになります。ピットの高さは基礎梁せいと同じです。

「ピットあり」にすると、最下階のスラブが構造スラブ(土間ではない)になり、かつ根切りが総堀になり根切り量が増えます。山留めが「余掘りなし」のときは埋戻しが発生しません。

「ピットなし」にすると、最下階スラブが土間になり、地下なしで独立基礎のときは布掘になります。

●スラブ型枠

構造別にスラブ型枠の種類を指定します。構造により選択できる型枠が異なります。

該当する構造がないときは選択しても工程に反映されません。PCa造はハーフPC、柱RC梁S造はデッキスラブのみなので、選択欄はありません。

② 基本設計段階 (STEP2)

鉄骨造の詳細設定

躯体詳細 - 事務庁舎.NKD

躯体 詳細

構法 **鉄骨** RC造 S造 SRC造 PCa造 柱RC梁S 工区割 柱・外壁

[鉄骨建方]

クレーン設置数 自動設定 1台

建方用移動式クレーン 0台

建方種別 地上 積層
地下 積層

[建方の節割]

建進げのとき節割は反映されません。

自動設定 分割数 3

建方	開始階	終了階
第1回	1F	2F
第2回	3F	5F
第3回	P1F	P1F

採用値 分割数 =自動

建方	開始階	終了階
----	-----	-----

[ベースプレート位置]

自動設定 スラブ天端

採用値 =自動

自動値に戻すときは "=" を入力。

OK キャンセル

●クレーン台数

基準階面積：1200㎡毎に1台（端数切上）。ただし、鉄骨建方の同時施工は最大2台です

●建方の節割

地下階、地上階、塔屋で節は分割されます。地上階の節割りは、最大15m以下かつ階数3以下で割付されます。地上1Fは、1F～2Fで1節になります。地下階は1層1節です。

接道条件が悪く長尺の鉄骨が搬入できない場合は、ユーザーが節割を変更してください。入力方法は、分割数を指定し、各節の開始階、終了階を指定します。

●ベースプレート位置

初期設定は、最下階のスラブ天端です。耐圧盤天端も選択できます。

② 基本設計段階 (STEP2)

RC造の詳細設定

躯体詳細 - 事務庁会.NKD

躯体 詳細

構法 | 鉄骨 | RC造 | S造 | SRC造 | PCa造 | 柱RC梁S | 工区割 | 柱・外壁

[生コン打設]

ポンプ車1台の生コン車台数	自動設定 1台付け	採用値 =自動
ポンプ車1台の打設量	150m3/日	=自動

自動値に戻すときは、ボックスに "=" 文字を入力します。

OK キャンセル

●ポンプ車1台の生コン車台数

ポンプ車1台に生コン車を1台付けるか、2台付けるかを選択します。初期設定は、敷地に余幅9.5m以上あると想定されるときは2台付け、それ以外は1台付けです。

●ポンプ車1台の打設量

1台のポンプ車が1日に打設できる生コン量です。自動値は下表です。

単位: m ³ /日	1台付	2台付
上部躯体	150	200
基礎躯体	180	250

RC造はこの打設量を工区割の自動算定に使用します。

② 基本設計段階 (STEP2)

SRC造の詳細設定

躯体詳細 - 事務庁舎.NKD

躯体 詳細

構法 | 鉄骨 | RC造 | S造 | SRC造 | PCa造 | 柱RC梁S | 工区割 | 柱・外壁

[小梁]

SRC造の小梁

自動設定
S小梁

採用値
=自動

OK キャンセル

● SRC造の小梁

S小梁とRC小梁から選択します。初期設定はS小梁です。

② 基本設計段階 (STEP2)

PCa造の詳細設定

躯体詳細 - pca集合住宅.NKD

躯体 詳細

構法 | 鉄骨 | RC造 | S造 | SRC造 | **PCa造** | 柱RC梁S | 工

[PCa工法]

部位	自動値	採用値
柱	PCa	=自動
梁	PCa	=自動
床	PCa	=自動
バルコニー	PCa	=自動
仕口	在来(RC)	=自動

[基準階のPCaピース数]

部位	自動値	採用値
柱	35	=自動
梁	58	=自動
床	72	=自動
バルコニー	32	=自動

自動に戻すときは「=」を入力

[タワークレーン]

自動値	採用値
2台	=自動

自動に戻すときは「=」を入力

●PCa造

柱部材と仕口は、在来(RC)とPCaが選択できます。自動値は、柱:PCa、仕口:在来(RC)です。

●基準階のPCaピース数

自動値の柱、梁の本数は、スパン6~7m程度で想定した本数、スラブのハーフPCは幅が2m、バルコニーは外壁3面にあると想定した数量を算出しています。

インナーバルコニー(片持スラブではなく、大梁のグリッド内にあるバルコニー)の場合、バルコニーの数量を調整してください。一般的にはバルコニーのピース数が0になります。

●タワークレーン

自動値は600床㎡に1台です。自動値以上に増やすことはできません。

パターン	柱		梁		仕口部		床	日数
	在来	PCa	在来	PCa	在来	PCa	PCa	
1	○			○	○		○	8
2(自動値)		○		○	○		○	7
3		○		○		○	○	6

② 基本設計段階 (STEP2)

柱RC—梁S造の詳細設定

躯体詳細 - pca集合住宅.NKD

躯体 詳細

構法 | 鉄骨 | RC造 | S造 | SRC造 | PCa造 | **柱RC梁S** | 工

[柱RC梁S]

部位	自動値	採用値
柱	在来(RC)	=自動
梁	S	=自動

[移動式クレーン]

自動値	採用値
1台	=自動

自動に戻すときは「=」を入力

●柱RC梁S

柱は、在来(RC)とPCaが選択できます。自動値は在来(RC)です。

●移動式クレーン

自動値は1200床㎡に1台です

・柱在来(RC)工法・・・16日/工区

サイクル(日)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
A工区	準備	鉄筋	型枠	柱C①	脱・型 ①脱型 ②組立	柱C②	脱型 ③脱型 B工区へ									スラブ筋	CON
	墨出・ 散水・ 養生	柱筋 セット															
	(200 t-1号機)																

・柱PCa工法・・・14日/工区

サイクル(日)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
A工区	準備	柱Pca				A工区鉄骨建方					デッキ・スタッド			
	墨出・ 散水・ 養生	柱筋 セット												
(柱工区)⇒	200 t-1号機													

② 基本設計段階 (STEP2)

工区割の詳細設定

階	構造	自動値	採用値
P1F	RC	1	=自動
5F	RC	3	=自動
4F	RC	3	=自動
3F	RC	3	=自動
2F	RC	3	=自動
1F	RC	3	=自動
B1F	RC	4	=自動
基礎	RC	5	=自動

RC:1ツ工区、SRC:建方工区、S:クレーン工区

自動値に戻すときは、ボックスに "="文字を入力します。

OK キャンセル

工区割は、RC造のときは1日に打設できる生コン量(コンクリート工区)と床面積で、RC造以外はクレーンが負担できる面積で工区数を決めます。

構造別の1工区は以下のとおりです。

- ・RC造打設工区: 生コン車1台付のときコンクリート150^m以下、2台付のとき200^m以下、かつ床面積300^m以下。
- ・SRC造建方工区: 600床^m以下
- ・S造建方工区: 1200床^m以下
- ・PCa造: 600床^m以下
- ・柱RC梁S造: 1200床^m以下

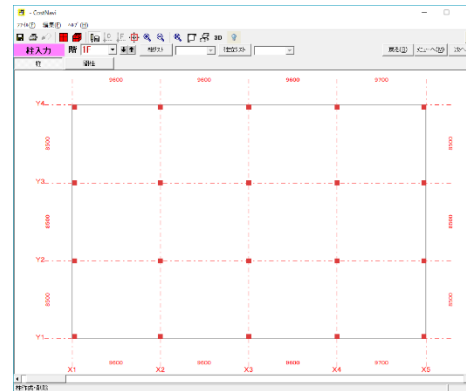
採用値欄には自動値の2倍を超える値は入力できません。

② 基本設計段階 (STEP2)

柱・外壁の詳細設定

階	主用途	階用途	面積 (m2)	階高 (mm)	構造	柱自動本数	柱本数	形状
P1F	-	有	160.0	4000	RC	9	=自動	□
5F	事務所	有	980.0	3800	RC	35	=自動	□
4F	事務所	有	980.0	3800	RC	35	=自動	□
3F	事務所	有	980.0	3800	RC	35	=自動	□
2F	事務所	有	980.0	3800	RC	35	=自動	□
1F	事務所	有	980.0	4400	RC	35	=自動	□
B1F	事務所	有	980.0	4150	RC	35	=自動	□

構造、用途、外壁形状により、適切なスパンで柱位置を割付して柱本数を算出しています。



プログラム内の仮想モデルイメージ
※上記画像は、プログラム上では見られません。

基本図形選択

辺長を指定する(二重線) m

四角形

他

建物平面形状により、柱、梁、杭の本数と外壁面積が変化するので、建物平面形状をここで指定します。初期設定は縦横比が約1:2の長方形です

② 基本設計段階 (STEP2)

外壁仕上の詳細設定

仕上詳細 - 事務庁舎.NKD

仕上 詳細

外部仕上 | 内部仕上 | 部屋数

[外壁仕上]

自動設定
小口タイル45二丁程度
RC
100%

採用値

仕上	下地	比率%
=自動	=自動	=自動
計		0%

自動値に戻すときは、ボックスに""文字を入力します。

[屋根仕上]

自動設定
陸屋根
アスファル防水 (押えコ)

採用値

形状	屋根仕様
=自動	=自動

OK キャンセル

S造は、指定された仕上と下地の種類で外壁の歩掛値が決まり作業日数が算出されます。RC造, SRC造の外壁作業日数は、躯体の進捗で決まります。選択できる仕上と下地の主な組合せは下表です。S造のとき下地「RC」は選択できません。

仕上材	選択できる下地
モザイクタイル50角程度	RC(打放補修)
小口タイル45二丁程度	PCa板
タイル張り二丁掛以上	ALC板 押出成形板
石張り	RC PCa板 押出成形板
アルミパネル	RC 胴縁
打放仕上	RC
弾性タイル吹付	RC
リソ吹付	PCa板 ALC板 押出成形板 サイディング
カーテンウォール(ロックダウン工法)	下地なし
カーテンウォール(ユニット工法)	

② 基本設計段階 (STEP2)

屋根仕上の詳細設定

The screenshot shows a software window titled '仕上詳細 - 事務庁舎.NKD'. It has a tabbed interface with '仕上 詳細' selected. There are three sub-tabs: '外部仕上', '内部仕上', and '部屋数'. The '外部仕上' tab is active, showing settings for '外壁仕上' and '屋根仕上'. Each section has an '自動設定' (Automatic Setting) box and a '採用値' (Adopted Value) table. The '採用値' tables have buttons for '行追加' (Add Row) and '行削除' (Delete Row). At the bottom of the window are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

外壁仕上

自動設定
小口タイル45二丁程度
RC
100%

採用値

仕上	下地	比率%
=自動	=自動	=自動
計		0%

自動値に戻すときは、ボックスに""=文字を入力します。

屋根仕上

自動設定
陸屋根
アスファル防水 (押えコン)

採用値

形状	屋根仕様
=自動	=自動

指定された形状と仕様で屋根の作業日数が算出されます。屋根の種類が複数あるときは、最も広い面積の屋根を入力してください。形状と仕様の組合せは下表です。S造以外で「折板葺き」、「スレート葺き」は選択できません。

形状	仕様
陸屋根	アスファル防水(露出)
	アスファル防水(押えコン)
	アスファル防水外断熱(押えコン)
	シート防水
勾配屋根	折板葺き
	カラーステンレス葺き
	ステンレスシーム溶接工法
	彩色スレート葺き
	スレート葺き
	瓦葺き
銅板葺き	

② 基本設計段階 (STEP2)

内装工程については下図に示すようにタクト工程にて算出しています。

【事務所】

タクト	事務所			事務所			事務所			事務所			事務所		
	ダクト方式 建築	設備	中央式 電気	ダクト個別併用 建築	設備	中央式 電気	ダクト個別併用 建築	設備	中央+個別 電気	ダクト個別併用 建築	設備	個別方式 電気	個別方式 建築	設備	個別方式 電気
	養生、墨出			養生、墨出			養生、墨出			養生、墨出			養生、墨出		
	外壁ALC	先行配管ダクト	配線準備	外壁ALC	先行配管ダクト	先行配線	外壁ALC	先行配管ダクト	先行配線	外壁ALC	先行配管ダクト	先行配線	外壁ALC	先行配管ダクト	先行配線
	耐火被覆			耐火被覆			耐火被覆			耐火被覆			耐火被覆		
T-1	区画壁LGS		先行配線 貫通処理	区画壁LGS		先行配線 貫通処理	区画壁LGS		先行配線 貫通処理	区画壁LGS		先行配線 貫通処理	区画壁LGS		先行配線 貫通処理
T-2	壁・柱LGS	開口墨出	ケーブルラック 間仕切配線	壁・柱LGS	開口墨出	ケーブルラック 間仕切配線	壁・柱LGS	開口墨出	ケーブルラック 間仕切配線	壁・柱LGS	開口墨出	ケーブルラック 間仕切配線	壁・柱LGS	開口墨出	ケーブルラック 間仕切配線
T-3	壁・柱ボード		ボード開口 間仕切配線	壁・柱ボード		ボード開口 間仕切配線	壁・柱ボード		ボード開口 間仕切配線	壁・柱ボード		ボード開口 間仕切配線	壁・柱ボード		ボード開口 間仕切配線
T-4 固定値		配管ダクト 1.5T			配管ダクト 1.5T			配管ダクト 1.5T			配管ダクト 1.5T			配管ダクト 1.5T	
T-5															
T-6	システム天井	天井巻出 器具取付		システム天井	天井巻出 器具取付		システム天井	天井巻出 器具取付		システム天井	天井巻出 器具取付		システム天井	天井巻出 器具取付	
T-7			天井器具取付			天井器具取付			天井器具取付			天井器具取付			天井器具取付
T-8	壁・柱塗装			壁・柱塗装			壁・柱塗装			壁・柱塗装			壁・柱塗装		
			壁器具取付			壁器具取付			壁器具取付			壁器具取付			壁器具取付
T-9	OA707	壁器具取付	OA配線	OA707	壁器具取付	OA配線	OA707	壁器具取付	OA配線	OA707	壁器具取付	OA配線	OA707	壁器具取付	OA配線
T-10	タイル カーペット		床器具取付	タイル カーペット		床器具取付	タイル カーペット		床器具取付	タイル カーペット		床器具取付	タイル カーペット		床器具取付
T-11	クリーニング			クリーニング			クリーニング			クリーニング			クリーニング		
	事務所: 10T			事務所: 10T			事務所: 10T			事務所: 10T			事務所: 10T		

② 基本設計段階 (STEP2)

設備の詳細設定

設備詳細 - 事務庁舎.NKD

設備他 詳細

設備 | 製作・準備期間 | 搬出入車両 | 検査・内覧会日数

[電気]

受電電圧
変電設備位置

自動設定
高圧受電
屋上
変電設備 1か所

採用値
=自動
=自動

[空調]

空調方式/熱源方式

自動設定
外個別併用方式 (隠蔽) / 中央 + 個別
中央式熱源機器の位置 屋上

採用値
=自動
中央式熱源機器の位置 =自動

[エレベータ]

台数

自動設定
2台

採用値
=自動 台

自動値に戻すときは、ボックスに
"="文字を入力します。

OK キャンセル

② 基本設計段階 (STEP2)

【受変電設備の設定条件】

受電電圧の自動設定値		
建物用途	延べ床面積	電圧
事務所	36,000㎡以上	特別高圧受電
	36,000㎡未満	高圧受電
	1,000㎡未満	低圧受電
医療施設	26,000㎡以上	特別高圧受電
	26,000㎡未満	高圧受電
	1,000㎡未満	低圧受電
集合住宅	86,600㎡超	特別高圧受電
	86,600㎡以下	高圧受電
	1,500㎡未満	低圧受電
学校	43,450㎡超	特別高圧受電
	43,450㎡以下	高圧受電
	1,500㎡未満	低圧受電
工場(階用途)	69,300㎡超	特別高圧受電
	69,300㎡以下	高圧受電
	1,000㎡未満	低圧受電
倉庫(階用途)	1,500㎡以上	高圧受電
	1,500㎡未満	低圧受電

延べ床面積ごとの受電方式種別・変電設備箇所数

【医療施設】

- ・延べ床面積26,000㎡以上→特高受電
- ・延べ床面積26,000㎡未満→高圧受電

変電設備の箇所数

- ・延べ床面積11,300㎡未満→1カ所
- ・延べ床面積11,300㎡毎に1カ所増

【事務所】

- ・延べ床面積36,000㎡以上→特高受電
- ・延べ床面積36,000㎡未満→高圧受電

変電設備の箇所数

- ・延べ床面積14,300㎡未満→1カ所
- ・延べ床面積14,300㎡毎に1カ所増

② 基本設計段階(STEP2)

【空調ダクト方式・熱源方式の設定条件】

空調方式／熱源方式

建物用途	空調方式	熱源方式	中央式熱源機器の位置	自動設定値
事務所	ダクト外方式	中央式(水)	屋上	
			屋内	
	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央式(水)	屋上	
			屋内	
	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央+個別	屋上	○
			屋内	
ダクト外個別併用方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
個別方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
学校	ダクト外方式	中央式(水)	屋上	
			屋内	
	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央式(水)	屋上	
			屋内	
	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央+個別	屋上	○
			屋内	
ダクト外個別併用方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
個別方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
医療施設	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央式(水)	屋上	
			屋内	
	ダクト外個別併用方式(隠蔽)	中央+個別	屋上	○
			屋内	
ダクト外個別併用方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
個別方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—		
集合住宅	個別方式(隠蔽)	個別式(冷媒)	—	○
工場・倉庫	空調なし		—	○

熱源方式	延べ床面積	屋上工事日数(週)
中央式 中央+個別	~5,000㎡	4
	5,001~10,000㎡	6
	10,001~30,000㎡	8
	30,001~50,000㎡	12
	50,001~100,000㎡	16
	100,000㎡以上	16

※屋上防水工事完了後に設備工事に着手する。

※60m以上の高さの建物は、熱源機器を屋上に設置しない。

② 基本設計段階 (STEP2)

製作・準備期間の詳細設定

名称	工程表示	製作日数 (暦日数)	製作完了日
杭	<input checked="" type="checkbox"/>	杭	着手の 日前
山留	<input checked="" type="checkbox"/>	山留	着手の 日前
鉄骨	<input checked="" type="checkbox"/>	鉄骨	着手の 日前

暦日数=休日を含む日数

準備日数 - 自動設定 15日 - 採用値 =自動 日 休日を含まない実働日数 準備工事をなしは0を入力

自動値に戻すときは、ボックスに""文字を入力します。

■製作期間

工場製作期間を工程表に出力するときは、製作日数、製作完了日とひも付ける作業を入力します。工程表でひも付けた作業の着手日が変わると、製作期間も移動します。新規入力の際は、山留め、既製杭、鉄骨、免震装置、PCaのうち入力中の建物に該当する製作物が自動的に表示されます。必要な場合は「追加」ボタンで製作物を追加できます。

「工程表示」で工程表への出力を切り替えられます。

■準備期間

・自動設定値

準備の日数(暦日)は、下記の日数を直線補間しています。ただし下限値2週間、上限値7週間です。

4,000延 m^2 以下 2週間

6,000延 m^2 3週間

10,000延 m^2 5週間

50,000延 m^2 7週間

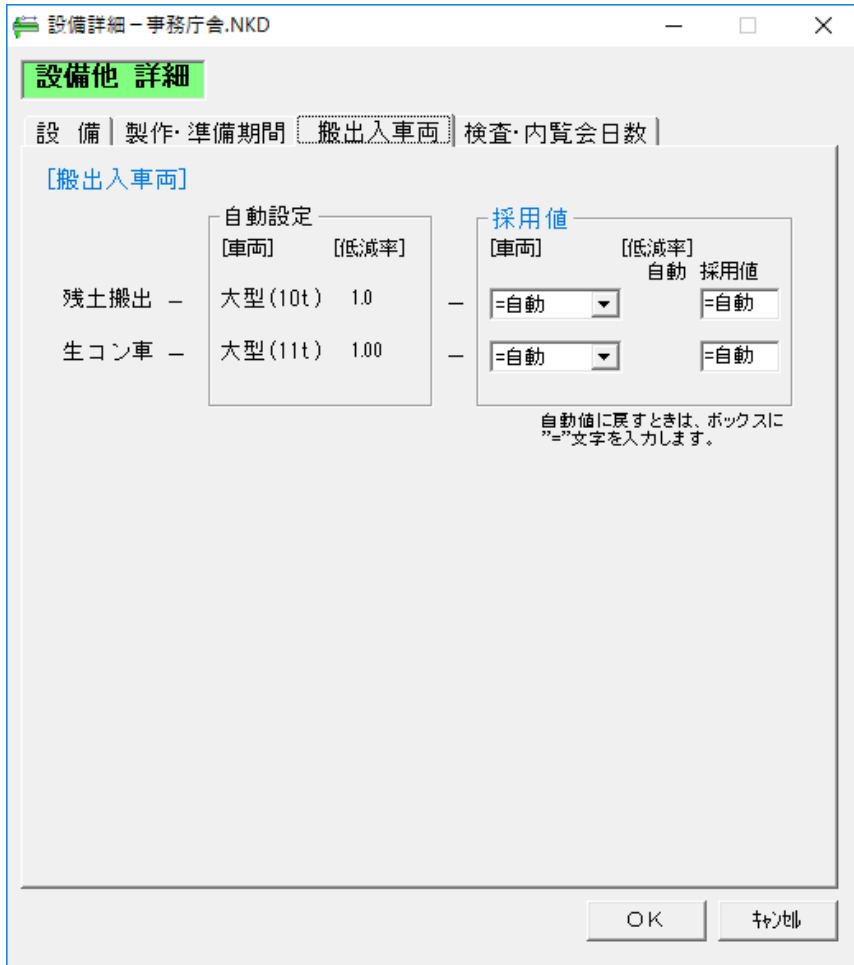
準備の開始日は、請負契約の契約開始日ではなく、工事着手日(実際に現場に乗り込む日)です。

■ユーザー設定

ユーザーが日数を指定または準備工事をなし(出力しない)にできます。

② 基本設計段階(STEP2)

搬出入車両の詳細設定



■ 残土搬出

大型を1.0としたときの低減率が根切りの歩掛に乗じられません。

	積載t	低減率
大型	10	1.0
中型	4	0.4
小型	2	0.2

低減率はユーザーが指定することもできます。

[車両]	[低減率]
自動	採用値
中型(4t)	0.4
	035

■ 生コン車

1日に打設できる生コン量が下表の値になり、コンクリートの打設日数が増えます。

			打設m3/日	
	積載m3	低減率	1台付	2台付
大型	4.5	1.00	150	200
中型	3.0	0.67	100	130
小型	1.5	0.33	50	70

② 基本設計段階 (STEP2)

検査・内覧期間の詳細設定

The screenshot shows a software window titled "設備詳細 - 事務庁舎.NKD". The main content area is titled "設備他 詳細" and has a tabbed interface with "検査・内覧会日数" selected. Under this tab, there are two sections: "自動設定" (Automatic Setting) and "採用値" (Adopted Value). The "自動設定" section shows "検査日数" (Inspection days) set to "実働 20日" (Actual 20 days) and "内覧会日数" (Viewing days) set to "実働 0日" (Actual 0 days). The "採用値" section shows "検査日数" and "内覧会日数" both set to "実働 [=自動] 日" (Actual [=Automatic] days). Below these sections, there is a note: "休日を含まない実働日数 自動値に戻すときは、ボックスに '=' 文字を入力します。" (Number of working days excluding holidays. To return to the automatic value, enter '=' in the box).

■ 検査日数

検査日数をユーザーが指定できます。ただし、自動設定値より短くするまたは20%以上長くすると「適正工期」ではなくなります。

		週	
延床面積 (㎡)	事務所	集合住宅	工場・倉庫
	医療施設		
	学校		
10,000以下	4	4	4
50,000以下	7	8	7
50,000超	9	11	7

■ 内覧会日数

建物用途が「集合住宅」で内覧会ありにしているときに、内覧会の日数を指定できます。

住戸数	実働日数
90以下	48
180	60
270以上	72

90～270戸の間は、直線補間します。

② 基本設計段階 (STEP2)

寒冷・多雪地域の詳細設定

工程設定 - 事務庁会.NKD

ファイル(F) ヘルプ(H)

工程設定

日付

工事着手日で指定 2019/07/09

竣工日で指定 2019/07/09

日付書式

月日表示 延日表示

日付線間隔 自動=10日 [=自動]

寒冷・多雪地域

地域 市町村 自動設定 採用値

23区 - なし - [=自動]

冬期休止 なし 外部作業のみ休止 完全休止 1月 1日 ~ 1月 1日

工程の緩急率

急 40 50 60 70 80 90 100 110 緩

適正工期

休日・残業時間

特別休暇設定

■設定内容(緩急率=100)

休日	完全週休2日
祝日	休まない

工程表を作図する

入力データ一覧 雨天・台風日 数量編集 工程作成条件

戻る 終了

■寒冷地区分

日建連適正工期算定専門部会で全国の市区町村を「寒冷地域」「多雪地域」「極寒地域」「多雪極寒地域」「該当なし」の地域に区分し、日建連会員企業へのアンケートで得られた多雪、寒冷による作業効率の低下を、工種別の歩掛低減率として設定し作業日数に反映します。低減率が設定されているのは11月～3月の期間です。「該当なし」は低減がありません。

■低減率

寒冷地区分毎に工種別の低減率を設定しています。その低減率を歩掛値に乗じて作業日数に反映します。作業線をダブルクリックすると表示される作業線プロパティの歩掛補正に、低減率と寒冷地区分が表示されます。低減がないときは1と表示されます。

作業名 B1F縦付 工種

作業日数 26日

作業量 2789 型枠m2

固定日数 5日

平均投入数 18 人

増減日数 0日

歩掛 8.6 型枠m2/人

実働日数 31日

歩掛補正 0.72 多雪極寒地域

雨天予想日 22日 雨天日は作業しない

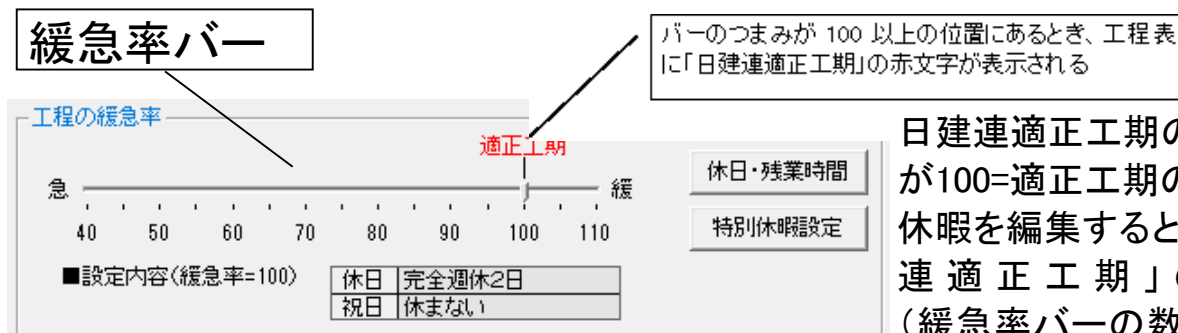
残業時間 0 時間

■冬期休止

冬期に外部作業を行わない、または工事を完全に休止する期間を指定できます。工期が複数年のときは、各年に同じ休止期間が設定されます。

② 基本設計段階 (STEP2)

工程の緩急率



日建連適正工期の条件を満たしているときは、緩急率バーが100=適正工期の位置にあります。休日・残業時間や特別休暇を編集すると、バーの位置が変化して工程表に「日建連適正工期」の赤い文字が表示されません。(緩急率バーの数値は緩急の目安の値で、工期率の値ではありません。)

緩急ユーザ設定

ユーザー設定値(この画面)を使う 日建連適正工期の値にする

・休日: 完全週休2日

・祝日: 休む

・残業・投入: 残業: 0~4時間 投入: 0.5~1.5倍

	土・地業	躯体	仕上
残業時間	0	0	0
投入倍率	1	1	1

OK キャンセル

・日建連適正工期の値

項目	値	備考
休日	完全週休2日	
祝日	休まない	「休む」でも「適正」の文字は表示されます
残業時間	0時間	
投入倍数	1.0倍	1未満の値でも「適正」の文字は表示されます

■ 残業時間

1日の労働時間は、8時間(午前8時から午後5時、休憩1時間)で計算しています。残業時間を設定すると8時間に残業時間が加算され、残業の分だけ工期が短くなります。0を超える値を設定すると工程表に「日建連適正工期」の文字は表示されません。

■ 投入倍率

投入倍率=1は、日建連版の初期設定の投入数です。投入倍率を設定すると、初期設定の投入数に投入倍率が乗じられた値になります。ただし、整数に丸められるので、掘削機など元の数値が小さい(1台)ものは、四捨五入されて投入数が増えないことがあります。1を超える値を設定すると工程表に「日建連適正工期」の文字は表示されません。

② 基本設計段階 (STEP2)

特別休暇の追加

特別休暇

特別休暇の追加

開始日	終了日	名称	追加

特別休暇の表示(変更・削除も出来ます)

開始日	終了日	名称	削除
2017/12/30	2018/01/03	正月休暇	
2018/05/03	2018/05/05	GW休暇	
2018/08/13	2018/08/15	夏季休暇	
2018/12/30	2019/01/03	正月休暇	
2019/05/03	2019/05/05	GW休暇	
2019/08/13	2019/08/15	夏季休暇	
2019/12/30	2020/01/03	正月休暇	
2020/05/03	2020/05/05	GW休暇	
2020/08/13	2020/08/15	夏季休暇	
2020/12/30	2021/01/03	正月休暇	
2021/05/03	2021/05/05	GW休暇	

適正工期に戻す OK キャンセル

■ 日建連適正工期の値

年末年始 5日、夏季 3日、ゴールデンウィーク 3日

この日数以下にすると、工程表に「日建連適正工期」の文字は表示されなくなります。適正工期に戻すには[適正工期に戻す]ボタンをクリックします。

特別休暇

特別休暇の追加

開始日	終了日	名称	追加
2019/06/01	2019/06/01	創立記念日	

特別休暇の表示(変更・削除も出来ます)

開始日	終了日	名称	削除
2018/12/30	2019/01/03	正月休暇	
2019/05/03	2019/05/05	GW休暇	
2019/06/01	2019/06/01	創立記念日	

開始日・終了日を入力

休暇名を入力

追加をクリック

② 基本設計段階 (STEP2)

入力データ一覧

入力データ

印刷

建物概要・工程設定 | 土地業・躯体 | 仕上・設備 | 数量編集・部屋数 |

●建物概要

建物名 事務庁舎
所在地 東京
建物用途 事務所
敷地面積 1,200.00 m²
建築面積 980.00 m²
延床面積 6,040.00 m²
階数 地下 1F、地上 5F、PH 1F
免震構造 なし

階別データ

階	面積(m ²)	階高(mm)	構造	階用途(m ²)
P1F	160.00	4,000	RC	廊下・階段・ホール 160.00
5F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
4F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
3F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
2F	980.00	3,800	RC	事務室 980.00
1F	980.00	4,400	RC	事務室 880.00 トランスホール・ロビー 100.00
B1F	980.00	4,150	RC	事務室 980.00

●工程設定

基準日 着工日で指定 2018/07/04
休日 完全週休2日
祝日 休む
特別休暇 2018/8/13~2018/8/15 夏季休暇
2018/12/30~2019/1/3 正月休暇

クリップボードにコピー

閉じる

入力したデータを一覧で確認できます。印刷もできます。「クリップボードにコピー」をクリックすると、入力データをExcelなどに貼り付けできます。

② 基本設計段階 (STEP2)

雨天日・台風日

雨天日 - 事務庁会.NKD

雨天日

雨天日に設定している日付

日付
1/15
2/15
3/10
3/20
4/10
4/20
5/8
5/16
5/24
6/8
6/16
6/24
7/10
7/20
8/10
8/20
9/8
9/16
9/24
10/8
10/16
10/24
11/10
11/20
12/15

台風日に設定している日付

日付
7月第4木曜日
9月第4木曜日

※積雪日は考慮していません。

閉じる

雨天日予想日に設定している日付、台風日に設定している日付です。変更はできません。

■雨天・台風休止になる作業

根切り、切梁、乗入れ構台、砕石・捨コン、設備(スリーブ他)、躯体工事、鉄骨建方、タワークレーン組立・クレーミング、外壁仕上、屋根仕上、屋上設備、外構

② 基本設計段階 (STEP2)

工程作成条件の表示

●建物概要

建物名: 事務庁舎	所在地: 東京都23区
建物用途: 事務所	構造: 地上RC造, 地下RC造
階数: B1F, 5F, P1F	敷地面積: 1,200.00 m ²
延床面積: 6,040.00 m ²	建築面積: 380.00 m ²

作業名	設定条件	数量	平均投入	歩掛	単位	歩掛日数	固定日数
1 準備		-	-	-	-	0	15
2 ソイル柱列壁	三点式杭打機 オ-カ-径800φ, 相番機あり	144	1	15	本/台	10	11
3 高支持力杭	三点式杭打機, 相番機あり	875	1	128.7	掘削m/台	7	8
4 1次根切	搬出265m ³ /日	3404	1	265.4	m ³ /台	13	0
5 乗入構台		349	2	68.8	伏m ² /組	3	1
6 切梁架設	井形	998	1	154	伏m ² /組	7	1
7 2次根切	搬出183m ³ /日	2772	1	182.5	m ³ /台	16	0
8 碎石・捨コン		-	-	-	-	0	2
9 耐圧板		95.6	13	0.9	t/人	9	3
10 基礎躯体	独立基礎とットあり	2334	20	10.2	型枠m ² /人	12	3
11 切梁解体	井形切梁1段, 構台あり	998	1	280	伏m ² /組	4	0
12 B1F躯体	4工区 合板型枠 150m ³ /日 1台付	2812	18	8.3	型枠m ² /人	19	3
13 1F躯体	4工区 合板型枠 150m ³ /日 1台付	3267	17	8.3	型枠m ² /人	24	10

土地業、躯体は、施工条件が異なると、作業日数も大きく変化することがあります。土地業、躯体の作業日数の根拠が分かるように設定条件、数量、平均投入、歩掛と作業日数を一覧で表示します。

③ 実施設計段階 (STEP3)

数量詳細 - 事務庁舎.NKD

数量編集 作業の数量をユーザーが変更できます。
数量=0の作業は編集できません。

作業名	現在の値	単位	変更する値
準備	0.0	-	=自動
ソイル柱列壁	144.0	本	=自動
高支持力杭	111.0	本	=自動
1次根切	3,404.0	m3	=自動
乗入構台	349.0	伏m2	=自動
切梁架設	998.0	伏m2	=自動
2次根切	2,772.0	m3	=自動
砕石・捨コン	0.0	-	=自動
耐圧板	95.6	t	=自動
基礎躯体	2,334.0	型枠m2	=自動
切梁解体	998.0	伏m2	=自動
B1F躯体	2,812.0	型枠m2	=自動
1F躯体	3,267.0	型枠m2	=自動
2F躯体	2,936.0	型枠m2	=自動
3F躯体	2,936.0	型枠m2	=自動
4F躯体	2,840.0	型枠m2	=自動
5F躯体	2,865.0	型枠m2	=自動
P1F躯体	692.0	型枠m2	=自動
B1F養生	0.0	-	=自動
1F養生	0.0	-	=自動
2F養生	0.0	-	=自動
3F養生	0.0	-	=自動
4F養生	0.0	-	=自動
5F養生	0.0	-	=自動
P1F養生	0.0	-	=自動
外壁仕上	2,266.0	m2	=自動
スラブ養生	0.0	-	=自動
屋上仕上	0.0	-	=自動
足場解体	3,231.0	型枠m2	=自動

自動値に戻すときは、ボックスに"="文字を入力します。

クリップボードにコピー OK キャンセル

積算した躯体数量を直接入力することで、正確な適正工期が算定できる。
※数量が0となっている項目は、入力できません。

日建連適正工期の表示

日建連適正工期 Ver4.0							
6月 ⁽²²⁾	7月 ⁽²²⁾	8月 ⁽¹⁹⁾	9月 ⁽²¹⁾	10月 ⁽²²⁾	11月 ⁽²¹⁾	12月 ⁽²¹⁾	2021年 1月 ⁽²⁾
10 20	10 20	10 20	10 20	10 20	10 20	10 20	10 20

■適正の表示

日建連適正工期の条件を満たす工程表には「日建連適正工期」(赤色)の文字が工程表に表示されます。下記のように適正の条件を満たさなくなると「日建連適正工期」(赤色)の文字が「日建連工期」(青色)に変化します。

- ① 休日が完全週休2日でない
- ② 残業時間がある
- ③ 投入倍率が1以上
- ④ 特別休暇が短い
- ⑤ 冬期補正の該当する地域を該当なしにしている
- ⑥ 施工条件を変更している（変更しても適正を満たす項目もあり、下表参照）
- ⑦ 作業線の日数を変更した
- ⑧ 「雨天日は作業しない」の設定を変更した

■適正が消える施工条件

詳細設定画面のうち下記の項目を編集すると「適正」の文字が消えます。これ以外は編集しても「適正」は消えません

分類	項目	
杭	相番機	相番機が入らない面積で、相番機ありにしているとき
鉄骨	クレーン台数	
	建方種別	
RC造	生コン台数	
	生コン打設量/日	
工区割	工区数	
検査	検査日数	短くしたとき、または20%以上長くしたとき

- ①対応面積の拡大
事務所7,200m²、医療・学校9,600m²
工場・倉庫19,200m²
- ②用途の拡充：物流、商業、宿泊の用途の追加
- ③高層部、低層部などの大きな工区分割での工程算出
- ④途中階での構造切替